

20110910_ビジネススキル向上研究会_議事録

日 時：2011年9月10日(土) 14:00-17:30

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

テーマ：「ドラッカーに学ぶ組織論 ～起業と事業拡大のターニングポイント～」

発表者；富沢成幸氏（戦略研／ビジネススキル向上研究会会長）

参加者：参加者 16人（発表者除く）

（戦略コンサルタント、財務コンサルタント、会社経営者、農業 NPO 理事長、
会社員、公務員、大学生、公認会計士補、行政書士、司法書士等）

挨拶：会長より当研究会の趣旨の紹介

発表：

「ドラッカーに学ぶ組織論 ～起業と事業拡大のターニングポイント～」

お話しの流れ；

1. ビジネススキルとは？
2. ドラッカーとは？
3. ドラッカーは組織について何と言っているか？
ケーススタディ「組織について」
4. マネジメント（方法、仕事、戦略）
ケーススタディ「岩崎弥太郎について」
ワークショップ「やらないこと」
5. まとめ

サマリー；

- ・「ターニングポイントで何を考えるか？」がテーマ。ターニングポイントをいかに見つけるかではない。
- ・本日の目的「個人力、組織力」について、ドラッカーのマネジメント論をビジネス界の偉人の人生と合わせて、共有したい。
- ・本日、持ち帰っていただきたいモノ
 - ① 事業の発展に伴う組織の考え方、理解
 - ② マネジメント心得、エッセンス
 - ③ 向上心のある仲間とのつながり
 - ④ ドラッカーが言っていることの概要

- ・ドラッカーは組織について何と言っているか？
 - ① 凡人に非凡なことをさせる
 - ② 組織構造はその目的に従う
- ・マネジメントの方法
「マネジメントとは、自立した存在である。企業の現実とニーズに根ざした存在である。それゆえに、マネジメントの職務が存在する。マネジメントの仕事が存在し、その技能が存在し、そのための組織が存在する。」
幕末・明治維新の起業家・企業人（財閥の創始者）である岩崎弥太郎は、「趣味、日本」と称した日本好きのドラッカーの著書「マネジメント」にも取り上げられている。
「岩崎弥太郎は、第一級の人物をひきつけ、育て使いこなした。ただ、彼はマネジメントというものを信じなかった。オーナー兼、起業家だけが権限と責任を持つべきであるとした。彼にとってはそれこそが西洋的で進歩的であった。」（上記著書より引用）
- ・マネジャーの仕事（ドラッカーの著書「マネジメント」より引用）
 - ① 部分の和よりも大きな全体、すなわち投入した資源の総和よりも大きなものを生み出す生産体を創造すること。
 - ② 直ちに必要とされているものと、遠い将来に必要とされるものを調和させていくこと。
- ・マネジメントの組織（ドラッカーの著書「マネジメント」より引用）
 - ① 組織構造や個々の職務設計は、課題中心に行わなければならない。
 - ② 実際の仕事の割り当ては、人と状況に合わせて行わなければならない。
- ・マネジャーの仕事、マネジメントの組織に共通する欲しいものは？
→「成果」（課題を解決したときに得られるメリット）。たとえば、お客様の満足。
- ・マネジメントの戦略
トップマネジメントとは、方向付けを行い、ビジョンを明らかにし、基準を設定する機関である。
- ・まとめ
徳川家康は、我慢のイメージが強いがこんなことも言っています。
「滅びる原因は自らの内にある。」
「主に思い切って言うは、大剛大忠のものなり。」
「諫めてくれる部下は、一番槍をする勇士より価値がある。」

私心が入り込むと組織はうまく行かない。

そして、人間をうまく使えないとやはり組織はうまく行かない。

95才の自分をイメージし、95才の自分が今の自分にアドバイスする事を、今日から実行してください。